

「当たり前」を 提供するために

統計局統計調査部国勢統計課
研究分析係長

阿久津 文香

AKUTSU Fumika

平成17年 4月 総務省採用

統計局統計調査部調査企画課
社会生活統計指標係

平成18年 7月 統計局統計調査部国勢統計課審査発表係

平成20年 10月 統計局統計調査部経済基本構造統計課
平成23年経済センサス準備室

平成22年 4月 政策統括官付国際統計管理官付
(国際統計担当)

平成24年 8月 人事院行政官短期在外研究員(英国)

平成25年 4月 現職



Week Schedule

✓ Mon JICAの国際協力プロジェクトに国勢調査の専門家として参加。エジプトへ出発!



□ Tue エジプト統計局の担当者から現地の国勢調査について説明を受け、状況を把握。

□ Wed 調査現場を視察。調査員や現地職員の行動で改善点を見つける。

□ Thu 説明や現場視察を踏まえ、エジプト国勢調査の品質改善に関する提案を検討。

□ Fri 提案の改善策が実行できるか、エジプト統計局の担当者とのディスカッション。



■日本を「見える化」

日本の高齢化率は25%を超えて、世界最高。ニュースや新聞、インターネットを検索すればよく目にするこの情報、どのように把握したデータだと思いますか？実は全ての人を対象に調査しています。今どきそんなアナログに？国民に？と思われるかもしれませんが、正確な情報を得るためには、実際に調査することが不可欠なのです。私が担当している「国勢調査」は5年に1度、日本に住む全ての人・世帯を対象に実施している統計調査です。これによって、少子高齢化といった人口構造の変化、東京一極集中や地方の過疎化などの人口移動状況、また人々が普段どのような仕事をして、どのように通勤・通学しているのか、など日本の現状が「見える化」されます。大量の情報に囲まれている昨今、データがあるのは当たり前を感じると思いますが、多くの人が関わり、積み上げられた情報が統計データです。知らないうちにできあがっているもの、ではないのです。

■専門的であり、総合的でもある

統計調査の実施に当たっては、地方公共団体、学術関係者、民間企業、そして調査対象となる人々……と多くの方々と接点を持ちます。また、統計は国際比較性が重要であるため、国際機関や外国の統計局とのつながりもあります。私はデータ品質管理や集計企画を担当していますが、イギリス国家統計局で新しい調査方法の研究を行っていたほか、国勢調査の専門家として、国際会議に参加したり、国際協力の現場に赴くこともあります。こうした経験から、行政官としての事務遂行能力はもちろん、コミュニケーション能力、統計の学術的・技術的知識など多面的な能力が必要と感じています。学生時代は、文系で、特に得意な分野もありませんでしたし、なんとなくジェネラルな公務員をイメージしていたので、今の仕事は全く想定外でしたが、業務を通じて専門性を高め、国内外を問わず多くの人と関わることで世界が広がる点が、統計業務の魅力の一つだと思います。

Private Life



終業後や週末は、仕事から離れて、リラックスすることを心がけていて、大学時代の友人と今でもよく会います。むしろ卒業後の方が仲が良いくらいです。職場やライフステージはそれぞれ違うけれど、感覚の似ている友人との時間は楽しく、ほっとします。生活の悩みや仕事の愚痴もお互いここで吐き出して、元気をもらいます。